

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成19年度農作物病虫害発生予察情報について

平成19年度農作物病虫害発生予報第4号を発表したので送付します。

平成19年度農作物病虫害発生予報第4号

平成19年6月29日
徳島県

I. 普通作物

早期水稲

葉いもち

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年より少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が32.3%、発病度が2.8)。

(2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉いもちの発生が多い圃場では、薬剤の登録内容を確認の上、粒剤の場合は出穂10日前までに、液剤の場合は出穂直前までに防除を行なう。また、出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期にも防除を行なう。

紋枯病

1) 予報内容

発生程度は「少～中」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は5.3%、発生株率は0.8%で、ほぼ平年(11.2%、2.7%)並の発生であった。

(2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 美波町由岐地区における本田調査において、初飛来を5月17日、第2回目の飛来を5月26日に確認した。
 - (2) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は52.6%、株あたり虫数は0.13頭で、ほぼ平年(48.1%、0.61頭)並の発生であった。
 - (3) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 箱施葉殺虫剤は、残効性に優れるものでも施用後約2ヶ月でその効力はほぼ消失する。
 - (2) 幼虫発生期は7月上旬頃と見込まれるので、この時期に液剤または粒剤による防除を行う。

斑点米カメムシ類

(6月29日付けで注意報発令中)

- 1) 予報内容
発生程度は「多」、発生量は平年より多い(前年より多い)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 6月後半の雑草地生息調査では、18地点のうち11地点で生息を確認した。発生地点率は61.1%、1地点当たり捕虫網20回振りによる捕獲虫数は6.6頭で、平年(26.9%、2.5頭)より多めの発生であった。
 - (2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 水稻出穂の15~20日前までに、斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺(イネ科)雑草の草刈りを励行する(出穂直前の除草は、本田内に斑点米カメムシ類を追い込み、被害を増加させるので行なわないこと)。
 - (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行なう。
 - (3) 薬剤散布については、出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行なう。

普通期水稻

葉いもち

- 1) 予報内容
発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 6月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が12.2%、発病度が0.6)。
 - (2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 今後の発生状況に十分注意し、曇雨天が続き上中位葉へ病斑の進展が見られる場合は、薬剤散布を行なう。

セジロウンカ

- 1) 予報内容
発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は41.4%、株あたり虫数は0.04頭で、ほぼ平年(31.2%、0.23頭)並の発生であった。
 - (2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫発生期は7月上旬頃と見込まれるので、本田初期までに殺虫剤を処理していない場合は、この時期に液剤または粒剤による防除を行う。

サツマイモ

食葉性害虫 (ハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ等)

1) 予報内容

発生程度は「中」、発生量は平年よりやや多い(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%、被害度は12.0で、平年(67.0%, 4.2)よりやや多めの発生であった。
- (2) 6月のフェロモントラップへのハスモンヨトウおよびシロイチモジヨトウの誘殺虫数は、ほぼ平年並で推移している。
- (3) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫期に徹底防除を図る。

ハダニ類

1) 予報内容

発生程度は「中」、発生量は平年よりやや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は60.0%、寄生葉率は11.4%で、ほぼ平年(55.5%, 7.7%)並の発生であった。
- (2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

II. 果樹

カンキツ

かいよう病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場における春葉での発生(6月20日調査、無防除区)は、発病葉率が12.0%、春葉発病度が5.1で、ほぼ平年(10.1%, 2.8)並の発生であった。果実での発生(6月22日調査、無防除区)も、発病果率が4.0%、果実発病度が0.6で、ほぼ平年(5.7%, 2.6)並の発生であった。
- (2) 6月前半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が26.7%、春葉発病度が0.3)。
- (3) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行ない、常発園や罹病性品種園では防除を励行する。
- (2) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

黒点病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年より少ない(前年より少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場における果実での発生(6月22日調査、無防除区)は、発病果率が10.0%、果実発病度が1.4で、平年(48.0%, 7.8)より少なめの発生であった。

(2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。

(2) 落花期に薬剤防除を行い、その1ヶ月後、または降水量200～250mmごとに防除を励行する。

そうか病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場における春葉での発生(6月20日調査、無防除区)は、発病葉率が33.3%、春葉発病度が12.9で、ほぼ平年(49.2%, 18.0)並の発生であった。果実での発生(6月22日調査)は、発病果率が78.0%、果実発病度が39.7で、ほぼ平年(62.4%, 24.2)並の発生であった。

(2) 6月前半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が21.3%、春葉発病度が1.0、果実発病度が0.8)。

(3) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生が多い園では、黒点病の防除を兼ねて薬剤防除を行なう。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場(6月20日調査、無防除区)では、発生を認めなかった(平年同時期は寄生葉率が13.1%、1葉あたり生息虫数が0.21)。

(2) 6月前半の巡回調査では、発生圃場率は22.2%、寄生葉率は2.7%で、平年(65.3%, 15.8%)より少なめの発生であった。

(3) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、葉裏まで薬液が充分かかるよう、丁寧に薬剤を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

ハダニ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 6月前半の巡回調査では、発生圃場率は16.7%、寄生葉率は0.2%で、ほぼ平年(6.0%, 0.2%)並の発生であった。

(2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、葉裏や徒長枝にも充分な量の薬液がかかるよう散布する。

(2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生程度は「中」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 予察灯へのツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシの誘殺数は、ほぼ平年並で推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年
6.1	14	475	1	102	89	14	17	0	12	31
6.2	26	193	4	608	71	5	25	1	38	13
6.3	44	405	2	32	106	86	38	0	8	17
6.4	32	459	7	90	154	75	8	0	17	16
6.5	134	188	3	547	173	37	6	0	91	22
6.6		344	2	365	133		18	2	70	20
7.1		196	0	281	99		2	0	63	26

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年
6.1	27	73	0	40	44	8	4	0	15	56
6.2	22	22	2	123	26	5	1	0	28	20
6.3	117	62	0	25	54	19	3	0	5	11
6.4	79	38	0	45	53	36	1	2	82	20
6.5	256	27	2	604	72	75	3	2	537	69
6.6		114	2	470	111		10	2	581	87
7.1		80	0	719	177		4	0	481	110

(2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

III. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が23.6%、発病葉率が2.6%)。
- (2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は11.1%、寄生葉率は0%、被害果率は0.6%で、平年(51.7%、4.0%、1.0%)より少なめの発生であった。

(2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。寄生場所は主に葉であるが、果実の萼の裏側にも好んで寄生するので、防除の際には、葉裏や果実の萼部に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が19.5%、寄生新梢率が0.9%)。

(2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率は22.2%、寄生葉率は2.2%で、ほぼ平年(35.9%、3.2%)並の発生であった。

(2) 6月22日発表の1ヶ月予報では、気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

IV. その他

1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

テレホンサービス 0883 (26) 1199
ホームページ <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予報，発生状況，防除法等をお知らせしています。